

MOT サテライト 2019

ひろがる地図

Wandering, Mapping

MOT ²⁰¹⁹ サテライト Satellite

2019年8月3日(土) - 10月20日(日) 入場無料

作品鑑賞とまち歩きを通して、美術館周辺の「まち＝地域」の魅力を見直す「MOT サテライト」の第4回目。美術館で展示を見た後、まっすぐに帰るのではなく、清澄白河のまちをちょっと探検してみてください。探検を楽しむヒントとなる展示のテーマは、「地図」です。

この展覧会では、空想の都市の姿を詳細に描いた地図や、触覚や匂い、音などの感覚を表現した地図、そこに暮らす人の日常を可視化する地図など、さまざまな「地図」を紹介します。物語の断片を拾い集めるゲームブックや、質問に答えながら織り成すタペストリーも、まちとあなたの関係をマッピングします。知らない土地と出会う手がかりであり、自分の視点を映し出す鏡ともなる「地図」は、この美術館のあるまち、そしてあなたの住むまちへのまなざしも変えるでしょう。

MOT サテライトについて

江戸時代からの下町情緒や水辺の風景などの魅力あふれるまちの特色に加えて、近年ではカフェやギャラリーも賑わいを見せるなど、新旧の文化が交わる清澄白河。東京都現代美術館は1995年に開館以来、この地で活動を続け、国内外の現代美術を発信してきました。リニューアルのための休館中(2016-2019年)にはじまったプロジェクト「MOT サテライト」とは、美術館の活動を館外に拡張しながら、まちなかでアーティストの作品展示やプロジェクトを実施し、「まち＝地域」の魅力を見直す試みです。地域との連携を中心にすえ、作品やプロジェクトを通して人と場、新旧の文化やコミュニティをつなぎ、現代における多様な文化、芸術表現との出会いの場を創出するとともに、地域における美術館の活動への理解を深めてきました。

2017年春の第1回「往来往来」、2017年秋の第2回「むすぶ風景」、2018年秋の第3回「うごきだす物語」は、美術館が休館中ということもあり、工場跡地や地域拠点など、まちの中のスペースをメインの会場として展示やプロジェクトを展開してきましたが、第4回となる「ひろがる地図」は、バリアフリー対策などを含め、より多くの方に「普段使いの美術館」として楽しんでもらえるようにリニューアル・オープンした東京都現代美術館をメイン会場としています。実際にまちを歩くことで体験できる作品もあり、美術館での展示に関連した作品の展示を清澄白河エリアのカフェや店舗など7箇所で行いますので、まち歩きを楽しみながらご周遊ください。地域のクリエイティブな拠点「地域パートナー」で行われる多彩な活動にもご注目ください。

1

お問い合わせ

東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤

TEL: 03-5245-1134(直通) / FAX: 03-5245-1141

E-MAIL: mot-pr@mot-art.jp WEB: <https://www.mot-art-museum.jp>

参加作家

一 今和泉隆行 [地理人] (いまいずみ たかゆき・ちりじん)

一見して日本の実在する市街地の地図に見えますが、架空の都市「中村市(なごむるし)」を描いたものです。彼が20年以上かけて断続的に改訂している地図は、創造主として理想の街を具現化したものではなく、ここに暮らす156万人の日常や葛藤を観察者として読み取っていく過程が形になったものなのです。

＊1985年生まれ、東京在住。7歳の頃から空想地図(実在しない都市の地図)を描き、現在も空想地図作家として活動を続ける。地図を通じて人の営みを読み解き、新たな街の見方を模索している。



1. 今和泉隆行《空想地図 中村市》2018 (部分)

一 マリー・コリー・マーチ

「私は楽天的だ」「私は家族を愛している」といった属性や性格を表す文章が書かれた200個のプレートがパネルにちりばめられ、参加者が自分に当てはまるものに糸をかけていくと、壁面全体が大きな織物のようなになる参加型の作品《アイデンティティ・タペストリー》を展示します。

＊1977年生まれ、カリフォルニア在住。布や糸を使った参加型インスタレーションやパフォーマンスを行うアーティスト。オレンジカウンティ現代美術センター、マジョリー・バリック美術館などで展示を行っている。

※文化庁委託事業「障害者による文化芸術活動推進事業(文化芸術による共生社会の推進を含む)」として作家が来日して制作します。



2. マリー・コリー・マーチ
《アイデンティティ・タペストリー》
Bleicher Gallery (LA) での展示風景
2012

一 光島貴之 (みつしま たかゆき)

音や匂い、触覚や身体感覚など、視覚以外の感覚によって空間や物事を認識し、それを目に見える形や色で表現するアーティストです。製図用のラインテープとカットニングシートで描いた平面作品で知られますが、今回は木製パネルに打った釘の間隔や傾き、高低差などで立体的に表現した新作も展示します。

＊1954年生まれ、京都府在住。10歳の頃に失明し、鍼灸師としても活動。1995年より製図用テープとカットニングシートを用いる独自のスタイルで「触る絵画」の制作を始める。兵庫県立美術館やサンディエゴ美術館など国内外での展覧会・個展が多数。



3. 光島貴之《夕日に向かって歩く》2018

お問い合わせ

東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤

TEL: 03-5245-1134(直通) / FAX: 03-5245-1141

E-MAIL: mot-pr@mot-art.jp WEB: <https://www.mot-art-museum.jp>

MOT+
MUSEUM OF CONTEMPORARY ART TOKYO
東京都現代美術館

ー サトウアヤコ

対話を通じて、日常生活の中であまり意識していないことを掘り起こす様々なプロジェクトを続けています。今回は、個人の日常や愛着を地図にプロットすることで、その土地の特性を顕在化させると同時にアーカイブする「日常記憶地図」という方法で、清澄白河周辺のリサーチと住人のインタビューを行いました。

* 建築・情報工学を学び、対話を主としたリサーチやコンセプトデザインなどを行う。2010年から「mogu book」、「本棚旅行」、「カード・ダイアログ」など複数のプロジェクトを継続しながら、媒介的なコミュニケーションや言語化のプロセスについて探求している。



4. サトウアヤコ 《日常記憶地図 上町台地編》
2016 (部分)

ー orangcosong + 進士 遙 (おらんこそん+しんじはるか)

選択肢によってストーリーが分岐するゲームブック「冒険の書」を手がかりに、ひとりひとりが自由にまちを探検する『演劇クエスト』。展示室で「冒険の書」を手にしたら、物語のスタートです。実際に清澄白河のまちを歩いて目印を見つけながらプレイすることで、フィクションと現実が交差します。

* 藤原 ちから (orangcosong)

アーティスト／批評家。1977年高知市生まれ。横浜を拠点としつつ、アジアを中心に世界各地を旅しながら活動している。2017年度よりセゾン文化財団シニア・フェロー、文化庁東アジア文化交流使。

* 住吉山 実里 (orangcosong)

アーティスト／ダンサー。1986年大阪生まれ。dracom 登録メンバー。2010年より、京都を拠点に自身の作品創作をはじめ。完全無言、筆談のみで対話を試みる『筆談会』をアジア各地で開催。

* 進士 遙

イラストレーター。1984年生まれ。18歳までソウル、上海で過ごし、ロンドンのロイヤルカレッジ・オブ・アートで学ぶ。「リサーチ × 妄想 × イラストレーション」をテーマにアートプロジェクトや地域振興活動などの視覚化に携わる。



5. 《演劇クエスト》2018
Courtesy of Hong Kong Arts Center

ー その他

東京都現代美術館の収蔵作品から、荒木珠奈、栗田宏一、ナイジェル・ホール、柳幸典の作品を展示。

また、国立民族学博物館および株式会社ゼンリンの収蔵資料より、歴史的・民族学的な視点による地図のご紹介もいたします。

MOT スポットでの展示

地域に点在するカフェや店舗の窓ガラスや展示できるスペースを活用し、展覧会のショウケースとなる作品を展示します。

光島 貴之 《まちを歩く in 清澄白河》

■オールプレスエスプレッソ 東京ロースタリー&カフェ
江東区平野 3-7-2

■チーズのこえ
江東区平野 1-7-7 第一近藤ビル 1F

■HOZON
江東区三好 2-13-3

■しまぶっく
江東区三好 2-13-2



6. 参考図版

※文化庁委託事業

「障害者による文化芸術活動推進事業（文化芸術による共生社会の推進を含む）」

今和泉 隆行 《中村市の住人の落とし物》

■ワールドネイバースカフェ 清澄白河
江東区平野 4-13-1 第2伊勢喜代ビル 1F

■深川江戸資料館
江東区白河 1-3-28

■デリカやまこし
江東区白河 4-3-1



7. 今和泉隆行《中村市の住人の落とし物・村上彩乃》
2017

地域との連携

作品の制作に際して地域でリサーチを行い、また、地域を回遊することを目的とした展示をしているほか、展示室内でも地域のガイドマップやフライヤーを配布するなど、情報提供を行っています。また、地域のクリエイティブな拠点「地域パートナー」について、当館のウェブサイトでもその活動をご紹介します。

地域パートナー

リトルトーキョー、Satoko Oe Contemporary、アルマス・ギャラリー、EARTH+GALLERY、アンドーギャラリー、Babaghuri、WILD SILK MUSEUM、江東区深川江戸資料館、GLASS-LAB、リカシツ、どうぶつしょうぎ café いっぷく、POTPURRI、gift_lab GARAGE、KANA KAWANISHI GALLERY、LYURO GALLERY、Tap Gallery、小名木川物語制作委員会、川辺からアプローチするアートシーズ、フカガワヒトトナリ、清澄白河ガイド(シラベル) ほか

4

お問い合わせ

東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤

TEL: 03-5245-1134(直通) / FAX: 03-5245-1141

E-MAIL: mot-pr@mot-art.jp WEB: <https://www.mot-art-museum.jp>

MOT+
MUSEUM OF CONTEMPORARY ART TOKYO
東京都現代美術館

出品作家による関連プログラム

参加作家によるトークイベントやワークショップ

- 今和泉 隆行 トーク「空想都市の歩き方」
- 光島 貴之 ワークショップ「てざわりのカード」
- サトウアヤコ ワークショップ「家族の風景を共有する」
- orangcosong+進士遙 トーク「演劇クエスト 清澄白河編ができるまで」(仮)

サマーナイトトーク (サマーナイトミュージアム開催期間中に実施)

- アグネス吉井 トーク&ワークショップ「街の隙間でこっそり踊る～ダンス・マッピングの手法～」
- ゼンリン社員によるマニアックな地図トーク
- 浜元 信行(顔マラソン研究所)+高橋康(GPS 絵画)トーク「現代の地上絵 地球に絵を描く GPS アート」

ギャラリートーク

- 担当学芸員によるギャラリートーク
- インターンによる韓国語のギャラリートーク

その他

- ビジュアル・ディスクリプション(言葉による記述)のある鑑賞会
- 手話を使った鑑賞会
- 車椅子で楽しむスローなアートツアー
- こども向けワークショップ 浜元信行+高橋康「地球にでっかい絵を描く夏休みにしよう」

※ 詳細やその他のイベントについては、東京都現代美術館ウェブサイトにて随時お知らせいたします。

※ 本内容は都合により変更になる場合がございます。

お問い合わせ

東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤

TEL: 03-5245-1134(直通) / FAX: 03-5245-1141

E-MAIL: mot-pr@mot-art.jp WEB: <https://www.mot-art-museum.jp>

展覧会概要

会期	2019年8月3日(土) - 10月20日(日)
休館日	月曜日(8月12日、9月16日、23日、10月14日は開館)、 8月13日、9月17日、24日、10月15日
開館時間	10:00 - 18:00(8月9日、16日、23日、30日の金曜日は21:00まで開館)
観覧料	無料
会場	東京都現代美術館 企画展示室 地下2F および MOT スポット7箇所
主催	東京都、東京都現代美術館・アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)、 文化庁
後援	アメリカ大使館
特別協力	深川資料館通り商店街協同組合
協力	国立民族学博物館、株式会社ゼンリン、KUSUNOKI WORKS、タウン誌 深川、オールプレス・ エスプレッソ・ジャパン、チーズのこえ、しまぶっく、HOZON、江東区深川江戸資料館、 ワールドネイバーズカフェ清澄白河、デリカやまこし
企画担当	事業企画課 企画係 八巻 香澄



同時期開催

企画展「あそびのじかん」7月20日(土) - 10月20日(日)

観覧料：一般 1,200 円 / 大学生・専門学校生・65 歳以上 850 円 / 中高生 600 円 / 小学生以下無料

コレクション展「MOT コレクション 第2期 ただいま／はじめまして」7月20日(土) - 10月20日(日)

観覧料：一般 500 円 / 大学生・専門学校生 400 円 / 高校生・65 歳以上 250 円 / 中学生以下無料

※ 企画展「あそびのじかん」のチケットでコレクション展もご覧いただけます。

広報用画像として本リリースに掲載している写真をご用意しております。

ご希望の際はキャプションについている番号を、広報までお知らせください。

お問い合わせ

東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 中島・工藤

TEL: 03-5245-1134(直通) / FAX: 03-5245-1141

E-MAIL: mot-pr@mot-art.jp WEB: <https://www.mot-art-museum.jp>